

環境課題の統合的取組と情報開示に係る手引き・（別冊）実践事例集のポイント



- サステナビリティ開示の義務化や、開示対象範囲の拡大に対して、事業者が効果的・効率的に取組を進められるよう、**複数の環境課題に係る情報開示等を行う際の開示手法例やメリット**についてまとめた「**環境課題の統合的取組と情報開示に係る手引き**」を策定。（令和7年6月）
- 統合的取組・開示を進める事業者の伴走支援を通じて、**統合的取組・開示を進める際の実践面でのポイント等**を整理した「**別冊版（実践事例集）**」を公表。（令和8年6月）

事業者のメリット等

- 複数の環境課題に対する統合的なアプローチを進めていくことの**メリット**として、①**統合的なリスク・機会の認識**や、②**統合的な対策の実行**、③**将来収益の蓋然性の高まり**が挙げられる。
- 以下のようなステップで取組を深化させていくことが考えられる。
 - ✓ **環境課題間のつながりの理解**
 - ✓ **横断的なリスク管理・ガバナンス体制の構築**
 - ✓ **企業としてのレジリエンスの向上**

実践面でのポイント

- 気候変動・自然資本・資源循環等の個別の環境課題への対応状況を並列に示すのではなく、**相互に関連し、企業の持続的な価値創出にどのように結びついているか**という**説明の筋道を示す**。
- **まずは可能な範囲から着手し、既存の取組の見直しにつなげていくことが重要**。

（統合的取組と情報開示の中長期的な発展イメージ）

